

お産のサークルを立ち上げて10年が経ちます。

マルコ



お産のサークルを立ち上げて10年が経ちます。

なぜ「子育てサークル」ではなく「妊産婦のサークル」だったかといいますと、出産が辛く、寂しく、悲しい想いをした女性たちにたくさん出逢ってきたからです。

お産に関わるようになっていろいろ調べるうちに、40年以上も(それ以上?!)前からこの現状を訴え続ける女性たちの声があったこと、それにも関わらず今まで現状は変わることもなく、(もっとひどくなって)いまでも出産で傷つき、トラウマになりしんどい子育てをしている女性たちがいるということに同じ女性としての怒りが湧き上がったのははじまりです。

新しいピカピカの輝くいのちの誕生。欲び満ちて生まれてくる赤ちゃん。

そんな祝福の 때가、思い出したくないお産体験に変わる。そして、そこから子育てが始まる。それはもう地獄絵図のようです。お産の現場こそが虐待のようにすら思うのです。

本来自然なお産(促進剤など使わず)の陣痛は、「痛み」と「まどろむほどの気持ちよさ」が交代に押し寄せます。なんとも言えないこの陣痛の波のなかで寝てしまう人もいます。うたた寝の気持ちよさに似ているかもしれせん。

そうして生まれきた赤ちゃんは穏やかで泣くこともあまりせず、静かに出てきます。女性はこの世で体験したこともない恍惚感を味わい、全てにただただ感謝の想いが溢れてくる、というのが自然にお産をされた方たちの大抵の方の感想です。

そして、お産が終わったその直後に、もうすぐにでもまたお産がしたい、と思う人も少なくありません。お産だけなら何度でもしたい、という声もよく聞きます。

しかし残念ながら、今日そんなお産ができているのは極わずかな人たちで、全体の1%いるかないか、、、しかももう何十年もこの数字は変わっていません。

99%が病院でお産をしている以上、お産は痛くて当たり前、辛くて当たり前、、、

産婦人科の先生たちですら自然なお産(医療介入のないお産)を見ることも、学ぶこともないので、自然なお産をしようとも思わないのも当たり前、、、これは医者だけの問題

でなく、制度の問題が大きいのだと思います。持病や症状によっては当然医療の助けが必要なものもありますが、それ以上に不必要な介入が増えているのが現状だともいえます。女性にとって出産というものは「そういうものなのだ」と諦めざるを得ない状況なのです。

さらに「痛いのが怖かったら、無痛分娩はどうですか?」と金儲け主義の産院はさらに不安を煽るばかり。無痛分娩で何人の方が亡くなっているニュースが最近も出たばかりです。

1988年からすでに陣痛促進剤の被害者の会が発足されていて、2013年には重い脳性麻痺になった赤ちゃんの3割に陣痛促進剤が使われ、そのうち8割近くでガイドラインを逸脱した不適切な使い方があったと報じられました。

ひとの体は完璧です。余計なことをしなければ、赤ちゃんにとっても母体にとっても一番いいリズム、その二人にとって特別なリズムで出てきてくれるのです。しかも宇宙のダイナミックなリズムと共に。それを感じられるのはお産ができる女性だけの特権です。

完璧なメカニズムの中のお産には、お産をしてすぐに親子が接触して過ごすことのみで得られる愛着形成のときがあるそうです。動物たちにもあるのですから当然人間にもあるのでしょう。(ひなが初めて動いたものを親鳥と思うとか)この時、女性の体から特別なホルモンでも出ているのでしょうかね、「愛おしい」という本能が働くのだと思います。それなのに産んですぐに母子が別室で過ごすことになるとどうでしょうか?この臨界期でしか得られない大切な母子の関係は、もう同じようにはいかないので、長い時間かけて取り戻し作業をしなければいけません。いまではお産と産後うつはセットのようになっていますが・・・

そのままやられたら放題の女性側にも正直腹が立ってきます。

「誰が産むんや?!」「誰の体や?!」「誰の赤ちゃんや?!」叫びたくなるほどです。そりゃ原発も基地の問題も他人ごとになるのは当然や、と思えました。

不安を煽るほど お金になる業界です。産む場所で産み方が変わってしまう制度の中で

私たちはいのちを預けている自覚が必要です。もちろん真摯なお医者さんたちもいますが、出会うことは容易ではないのです。

お産の問題だけに限らず、あまりにもお金で売られた情報を鵜呑みにしすぎですよね。当たり前とおもっていたことすらも立ち止まったほうがよい世の中です。

お産の一連の中には、未来をつなげていく上で大事なことがほとんどそこに凝縮されています。教育、医療、薬害、環境、人権、政治・・・などあらゆる問題が様々に複雑に絡み合っています。(原発も同様で、まったく同じ縮図があるように思います。)

産み方は生き方につながる営みです。そして、どう死んでいくのかも同様です。お産は本能が目覚める絶好のチャンス!いのちとしっかり向き合った10ヶ月間と温かいお産を体験できた女性は、自分の周りだけでなく、国境すらもなくなり「人」としてどう生きるのか、につながっていくようです。

そうすると、胡散臭い情報にも「ん?なんか変!」と自分の勘が取り戻されていきます。そんな女性たちを本当にたくさん見えました。ちゃんと顔が変わるんですね。すごいです!それは本当に美しくまばゆい程です。そんな女性たちのそばにいる幸せはやめられません。(笑)

これからも、おかしきことを「おかしき」と感じられる肌感覚を育ててくれるお産でつながっていきたく思います。わたしにとってそれが平和への近道だと思うからです。最後にそれを支えてくれる男性陣の存在があってこそ!であることを付け加えておきます。

活動紹介

★産む人たちに向けて・・・お産の教室&ランチ会、おしゃべり会

「いのちの根っこ」 <https://www.facebook.com/inochinonecco/>

★医療従事者、助産師、学生の方に向けて、政策提案や研修など

「日本妊産婦支援協議会 りんごの木」 <https://www.facebook.com/RiBenRenChanFuZhiYuanXieYi-HuiringonoMu/>

↑長屋「あひおひ」にて。毎月1回の「お産の教室&ランチ会」の風景。